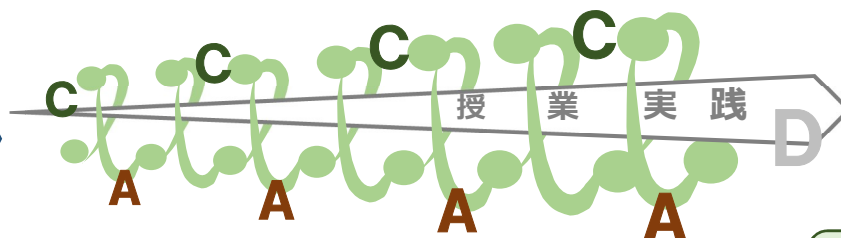


P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

(単位時間だけでなく単元を通して)

新たな問いを
見いだしていたか

☐ Check

筋道を立てて
説明し合い
考えを理解していたか

☐ Check

よりよい考えに
高めようとしていたか

☐ Check

問題に出合ったとき、
「うん？これまでとは違うぞ！」と

課題をもち

「これまでのことを使えば・・・できそうだ」と

課題から結論までの見通しをもち

「なぜなら・・・」「式のことを図でいうと・・・」などと

根拠をはっきりとさせ

表現を関連付けながら

仲間と考えを確かなものとし

「条件を変えると・・・」

「より簡単に」

「まとめると・・・」と

統合的・発展的に考え

粘り強く振り返りながら

課題を解決する

課題から結論までの
見通しが
もてていたか

☐ Check

数学的な表現を
柔軟に用いて表現して
いたか

☐ Check

既習の知識と
関連付けて
まとめていたか

☐ Check

児童の
つぶやきや
様相から Check !



A 授業改善のポイント

☞ 新たな問いを見いだすために
「これまでと違うことは何かな」と問いかけたり、
児童が相違点や類似点から新たな問いを見いだす姿を
価値付けたりしましょう。

…算数は系統的な学問です。既習内容との相違点や類似点に目を
向けることで、新たな問いが生まれます。問題に出合ったとき
に、題意を理解するだけでなく、既習内容と比べて問いを見いだ
す習慣を付けることが大切です。

☞ 筋道を立てて説明し合い考えを理解するために
相手に自分の考えが正しいことを伝えたり、
自分の考えの足りない部分を指摘してもらったりするなどの
説明し合う場を保障しましょう。

…考えが正しいかどうかを判断するには、「根拠（既習内容）がは
っきりしているか」「課題に対する結論になっているか」などの
視点を児童に示す必要があります。また、なぜそう考えたのか「目
的」を確認しておくことも重要です。

例：「(目的) 整数と同じように計算するために、(根拠) 0.5 は
0.1 の 5 個分だから、 $0.5 + 0.3$ は 0.1 を $5 + 3 = 8$ 個分と計算でき
るよ。だから、(課題に対する結論) 小数のたし算は、0.1 のいく
つ分とみると、整数の計算と同じようにできる。」

☞ よりよい考えに高めるために

算数のよさを児童に伝えましょう。

よさを求める姿を価値付けましょう。

…数学のよさには、明確性(根拠がはっきりしている)、有用性(役
に立つ)、簡潔性(より簡単)、一般性(いつでもいえる)などが
あります。よさを知ることによってよさを求める姿につながります。

☞ 課題から結論までの見通しをもつために
同様の課題解決の過程が無いかを想起させましょう。
…算数では、同じような課題解決の過程が繰り返されます。既習
の内容を想起し、相違点から課題を明らかにするだけでなく、
課題解決の過程も想起し、解決方法の見通しにつなげることが
大切です。

どこまで自分で考えるのかを明確にしましょう。
…算数では、答えを求めて満足してしまう児童もいます。課題に
対する“結論”の見通しまでもたせることで、考えができたこと
を自分でも判断できるようになります。

☞ 数学的な表現を柔軟に用いて表現するために
「このことを式で言うのと・・・」などと説明する姿や、
図と式を矢印で結んでノートに記す姿など、
多様な表現を関連付ける姿を価値付けましょう。
…児童は表現の違いを考えの違いだと捉えることがあります。算
数では、同じことを式や図、言葉などで多様に表現します。児
童には、多様な表現を関連付けることで理解が深まることや、
表現できなかったり関連付けられなかったりする部分は理解
が不十分であるなど、表現することの価値を伝えることが大切
です。

☞ 既習の知識と関連付けてまとめるために
・根拠を基に筋道を立てて考えることで、考えが確かなものにな
ります。その根拠(既習内容)を共通にもつ既習の知識と関連
付けて考えたり、条件を変えてより一般的な考えに高めたりし
ていくことができます。そのように、考えを統合的・発展的に
まとめていくように指導することが大切です。

ここに示したものは、あくまでも一例
です。周りの仲間の実践や、学習指導
要領解説編なども参考にして授業改善
を図りましょう。

